

福島大学 教育研究組織 (学士課程) の改革 (案)

(構想中)

平成30年4月3日現在

(資料2-1)

教育研究組織改革の必要性

- 東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故による未曾有の大災害、今後数十年かかるとされる福島の復興
- 震災以降重要な役割を果たしてきた本学の機能を強化するため、既存の教育研究組織のブラッシュアップと理工農系人材育成の強化を目指す

現行

人文社会学群			理工学群
人間発達文化学類 270人 (1,080人)	行政政策学類 210人 (840人)	経済経営学類 225人 (900人)	共生システム理工学類 180人 (720人)
人間発達専攻 文化探究専攻 スポーツ・芸術創造専攻	法学専攻 地域と行政専攻 社会と文化専攻	経済分析専攻 国際地域経済専攻 企業経営専攻	人間支援システム専攻 産業システム工学専攻 環境システムマネジメント専攻
現代教養コース (夜間主社会人教育コース) 60人 (240人)		各モデル20人 (80人)	
文化教養モデル	コミュニティ共生モデル 法政策モデル	ビジネス探究モデル	

既存組織を見直し
農学群 (仮称) に定員割当

三位一体の改革 (中井プラン2021)

- 農学系人材育成組織の設置
- 既存学類の見直し
- 入試改革を含む教育改革

教員の一元的所属組織「**教育研究院**」による教員人事の全学管理と教員資源の再配分

→ 各部局の教員人事をすべて精査、審議の上その可否を学長のリーダーシップにより運営。

改革案

震災・原発事故からの学びを生かした「問題解決を基盤とした教育」への転換

人間発達文化学類	行政政策学類	経済経営学類	理工学群	農学群 (仮称)
260人 (1,040人)	205人 (820人) 昼間・185人 (740人) 夜間主・20人 (80人)	220人 (880人)	共生システム理工学類 160人 (640人)	食農学類 (仮称) 100人 (400人)
教育実践コース 心理学・幼児教育コース 特別支援・生活科学コース 芸術・表現コース 人文科学コース 数理自然科学コース スポーツ・健康科学コース	法行政政策コース (仮称) 社会連携コース (仮称)	経済学コース 経営学コース (グローバル副コース)	数理・情報科学コース 経営システムコース 物理・システム工学コース 物質科学コース エネルギーコース 生物環境コース 地球環境コース 社会計画コース 心理・生理コース	食品科学コース 農業生産学コース 生産環境学コース 農業経営学コース
養成する人材像 人間の発達と文化の探究・創造に関する専門的知識と技能を学び、学校や社会において人間の発達を支援する人材	養成する人材像 行政政策分野において、職業環境の変化に柔軟に対応できる複眼的思考を持ち、「理論知」と「実践知」を融合させ課題を解決する人材 (地域政策プランナー)	養成する人材像 経済経営分野における基礎的素養、思考力を持ち、主体的に探究し課題を解決する人材／グローバルな視野を持って地域で実践的に活躍できる人材	養成する人材像 人・産業・環境の共生に関わる多様な知識と広い視野、および実践的研究経験を持ち、現代社会や地域の問題をシステム科学的にとらえ、その解決に主体的に寄与できる理工系人材	養成する人材像 実践的な農学を修め、被災地の農業復興支援及び地域の農業・農村再生に取り組む人材、世界的な市場競争力強化に向けて活躍する担い手となる人材

組織改革

教育改革

14学系による研究機能の強化

- ・人間・生活学系
- ・心理学系
- ・文学・芸術学系
- ・健康・運動学系
- ・外国語・外国文化学系
- ・法律・政治学系
- ・社会・歴史学系
- ・経済学系
- ・経営学系
- ・数理・情報学系
- ・機械・電子学系
- ・物質・エネルギー学系
- ・生命・環境学系
- ・農学系 (仮)

全学基礎教育は、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」から成る「**基盤教育**」へ再編

学類横断の「地域実践特修プログラム」「グローバル特修プログラム」からなる「**全学特修領域**」の設置

入試から就職まで一貫した教育・学生マネジメント「**教育推進機構**」の設置

「問題基盤型学習」を中心としたアクティブ・ラーニングの展開と内部質保証システムの再構築

「解のない問い」へのチャレンジ
深い課題意識を持ち問題解決に挑む専門的職業人の育成

専門的な知識や技術をしっかりと身に付け、
福島の地で考え実践し、21世紀の問題に立ち向かう力を養います!

福島大学の教育が変わる! —7つのポイント—

2019年に福島大学は、食農学類を新しく設置するだけでなく、大学全体の教育も変えます。

大震災や原発事故後の本学の取り組みは国内外から高く評価されています。これらの取り組みを、教育全体に取り込むことで、他大学に見られないこれまで以上に実践的な教育を展開します。

世界的に知られることになった「福島の課題」を、世界が抱える「21世紀の課題」としてとらえ、この「解のない問い」に粘り強くチャレンジできる学生を育てる問題探究型のカリキュラムに変えます。



1 入学から卒業まで手厚く教員がサポートします!

一貫した教育方針の下で、アドバイザー教員が学生の生活や学習をきめ細かくサポートします。

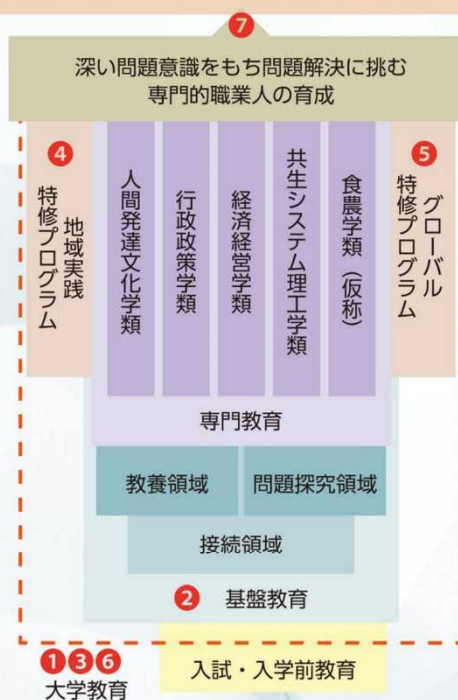
2 基礎教育を充実させます!

基礎教育を大きく変え、高校までの学びを大切に、大学で学ぶために必要な技術を確実に身につけさせ、学問の面白さを知り、個々人の問題意識を高めるための授業を新たに設定します。

3 身につけた力を「見える化」します!

どんな能力が成長し、どこが足りないのかを「見える化」し、学生の意欲を育てるとともに、アクティブ・ラーニングやプロジェクト型学習を多く取り入れ、学生の学びを活性化し、主体的な学び手を育てます。

教育者・公務員・経済人・科学技術者・農業技術者・進学



4 地域に学ぶ活動を強化します!

本学の学びの特徴の一つ「ふくしま未来学」を広げ、地域の現状に触れ、地域で活動する学習活動を大胆に取り入れ、問題を探究したり解決する力を伸ばします。

5 グローバル教育を充実させます!

語学教育をグレードアップし、海外留学や海外との交流活動につなげていくグローバル教育を強化し、福島と海外をつなげる国際人を育てます。

6 情報教育を実践的に変えます!

情報教育に力を入れ、様々なデバイスを使った情報の収集や処理、ネットなどを実践的に学びます。

7 キャリア教育と就職指導を強化します!

先進的なキャリア教育をさらに前進させ、就職指導やインターンシップを強化することで、就職に強い人材を育てます。

〈福島大学の教育目標〉

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や少子高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域及び世界の「21世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「解のない問い」に挑む態度などを身につけさせます。

〈福島大学学生に期待する姿勢および能力〉

福島大学は、上記の教育目標を達成するために、以下の姿勢及び能力を身につけさせると同時に、他者と協働して実践できる自立的な市民となることを期待して教育に取り組みます。

1. 最新の専門知識及び技術(専門知識・技術)

- ① 資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル
- ② 最新の学問的知識や技術を確実に身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や技術を改善したり更新したりする態度

2. 本質を見極めるための教養と学際性(教養と学際性)

- ① 物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着
- ② 他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築

3. 協働的な問題探究(社会的スキル)

- ① 日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル
- ② 高度なリーダーシップやフォロワーシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践

4. 社会の改善につなげる創造性(認知的スキル)

- ① 事実にもとづく客観的な社会の把握、および多面的にアプローチするためのデータ解析やフィールドワークなど様々なツールの駆使
- ② 社会と自身の関係を問い直し、常識にとらわれることのない独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れないチャレンジ精神

5. 市民としての主体的態度(態度や価値観)

- ① 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地に学ぶ者として、被災の概要を知り、被災地に寄り添い共感的にアプローチする態度
- ② 地域の抱える課題を社会が直面する21世紀的課題としてとらえなおし、主体的に探究しようとする態度

〈全学カリキュラム・ポリシー〉

福島大学では、〈期待する姿勢および実践〉に示される能力を身につけさせるために、カリキュラムを「基盤教育」「専門教育」「全学特修領域」の3つに区分し、相互に関連付けて有機的に学ぶことをめざします。それぞれの区分の内容は以下の通りです。

1. 基盤教育

大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけるために基盤教育を置きます。

(ア) 接続領域

高校までの学びを大学での学修に結びつけ、基礎教育と専門教育、学問と現実社会を接続させるための学修領域です。「スタートアップセミナー」「キャリア形成論」「健康運動科学実習」「英語」「英語以外の外国語」などの科目を内容とします。

(イ) 教養領域

民主的な社会を築く上で必要な幅広い教養をはじめ、高度に技術が発達した現代社会を主体的に生きていくために必要な諸スキルを身につけるための学修領域です。「学術基礎科目」「キャリア設計科目」「健康・運動科目」「外国語科目」「情報科目」に関連する科目を内容とします。

(ウ) 問題探究領域

地域課題や世界的課題を自分事として位置づけ、解決に向けて追求する方法や態度を身につけるための学修領域です。諸問題の実像を学ぶ「問題探究科目」、学生が自主的に集団を組織して学修する「自主学習プログラム」、基礎クラスごとに問題解決学習を展開する「問題探究セミナー」の各領域を内容とします。

2. 専門教育

基礎・基本科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために、専門的な知識や技術を身につける多様で体系的なカリキュラムが準備されています。専門領域の担い手となるための学生主体で実践的な学修の機会が数多く準備されており、問題解決能力を身につけ、自身や社会に変革をもたらすための実践的で深い知識や技術を身につけます。

また後半は、基盤教育も含めた大学教育の集大成として「卒業研究」関連科目が設定されており、卒業研究をまとめ上げ、学士の授与について審査されます。

3. 全学特修領域

今日極めて重要となっている「グローバルな思考力」「地域での実践力」を身につけるためのプログラム群で、希望する学生は学類横断で履修することができます。

(ア) グローバル特修プログラム

語学グレードアッププログラム、グローバル教養科目、国際交流、海外留学などの機会を提供する、グローバル化に対応したプログラムです。

(イ) 地域実践特修プログラム

「ふくしま未来学」を中心とし、地域課題を学ぶとともに、フィールドワークなどを通して、企画力や実践力を身につけるプログラムです。

4. 課外活動

本学では学生の主体的・自治的活動を重視しており、多くのサークル活動やボランティア活動、インターンシップ、大学での学びを拡張するプロジェクトなどの活動が準備されています。こうした活動にも積極的に参加し、社会人としての資質を身につけることが期待されます。

5. その他

本学では教育の質を保証するために、GPA 制度(学修状況・成果の可視化)とCap 制度(単位制度の実質化と質を伴った学修時間の確保)を導入しています。

H31 年度 福島大学における組織改編等の概要 (人間発達文化学類)

○基本情報 (組織改編)

項目		内容
1	学群名称	人文社会学群
2	学類名称	人間発達文化学類
3	コース名称等	【現在】 人間発達専攻 文化探究専攻 スポーツ・芸術創造専攻  【新】 教育実践コース 心理学・幼児教育コース 特別支援・生活科学コース 芸術・表現コース 人文科学コース 数理自然科学コース スポーツ・健康科学コース
4	夜間主コース	無
5	定員 ※定員変更詳細	260人/学年 (うち夜間主コース0人/学年) ※ 【現在】 【新】 昼間コース 270人 → 260人 夜間主コース 20人 → 0人 (文化教養モデル)
6	入試区分 (募集人員)	(変更 有) ※下線は変更点 ・一般入試 (前期) : <u>166人</u> ※変更前 165人 ・一般入試 (後期) : <u>19人</u> ※変更前 30人 ・推薦入試Ⅰ : 20人 ・推薦入試Ⅱ : 55人 ・編入・学士 : 10人 ・私費外国人留学生入試 : 若干名
7	試験科目	(変更 無) ・一般入試 (前期) : センター試験、個別学力検査または実技検査 ・一般入試 (後期) : センター試験、小論文 ・推薦入試Ⅰ : 小論文、実技試験または実技実績評価、面接 ・推薦入試Ⅱ : センター試験、面接 ・編入・学士 : 外国語、小論文、面接 ・私費外国人留学生入試 : 日本留学試験、小論文または実技検査、面接
8	センター試験 利用科目	(変更 無) ・一般入試 (前期) : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語 ・一般入試 (後期) : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語 ・推薦入試Ⅱ : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語
9	出願資格	(変更 無)
10	備 考	○詳細は、入学者選抜要項により発表予定。 ○取得できる資格については、変更なし。
11	その他補足事項	○取得できる学位 : 学士 (発達文化)

H31 年度 福島大学における組織改編等の概要 (行政政策学類)

○基本情報 (組織改編)

項目		内容
1	学群名称	人文社会学群
2	学類名称	行政政策学類
3	コース名称等	【現在】 法学専攻 地域と行政専攻 社会と文化専攻 → 【新】 法行政政策コース (仮称) 社会連携コース (仮称)
4	夜間主	有
5	定員 ※定員変更詳細	205 人 / 学年 (うち夜間主コース 20 人 / 学年) ※【現在】 昼間コース 210 人 → 昼間 185 人 夜間主コース 20 人 → 夜間主 20 人 (法政策モデル・コミュニティ共生モデル) ※【新】
6	入試区分 (募集人員)	(変更 有) ※下線は変更点 【昼間】 ・一般入試 (前期) : <u>108 人</u> ※変更前 140 人 ・一般入試 (後期) : <u>35 人</u> ※変更前 45 人 ・推薦入試 : <u>42 人</u> ※変更前 25 人 ・編入・学士 : 10 人 ・私費外国人留学生入試 : 若干名 【夜間主】 ・ <u>AO 入試</u> : <u>20 人</u>
7	試験科目	(変更 有) ※下線は変更点 【昼間】 ・一般入試 (前期) : センター試験、小論文 ・一般入試 (後期) : センター試験、小論文 ・推薦入試 : 小論文、面接 ・編入・学士 : 英語、小論文、面接 ・私費外国人留学生入試 : <u>日本留学試験、面接</u> 【夜間主】 ・ <u>AO 入試</u> : 志願理由書に基づいた口頭試問
8	センター試験 利用科目	(変更 無) ・一般入試 (前期) : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語 ・一般入試 (後期) : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語
9	出願資格	(変更 有) ※下線は変更点 変更なし
10	備 考	○詳細は、入学者選抜要項により発表予定。 ○取得できる資格については変更なし。
11	その他補足事項	○取得できる学位 (昼間・夜間主共通) ・法行政政策コース (仮称) : 学士 (法学)、 ・社会連携コース (仮称) : 学士 (社会学) ○コースは、1 年次後期に本人の希望を考慮して決定します。

[illegible]

H31 年度 福島大学における組織改編等の概要 (共生システム理工学類)

項目		内容
1	学群名称	理工学群
2	学類名称	共生システム理工学類
3	コース名称等	【現在】 人間支援システム専攻 産業システム工学専攻 環境システムマネジメント専攻  【新】 数理・情報科学コース 経営システムコース 物理・システム工学コース 物質科学コース エネルギーコース 生物環境コース 地球環境コース 社会計画コース 心理・生理コース
4	夜間主コース	無
5	定員 ※定員変更詳細	160人／学年 ※ 【現在】 昼間コース 180人 → 【新】 160人
6	入試区分 (募集人員)	(変更 有) ※下線は変更点 ・一般入試 (前期) : <u>70人</u> ※変更前 80人 ・一般入試 (後期) : <u>45人</u> ※変更前 50人 ・推薦入試 : 20人 ・AO入試 : <u>25人</u> ※変更前 30人 ・編入 : 若干名 ・私費外国人留学生入試 : 若干名
7	試験科目	(変更 無) ・一般入試 (前期) : センター試験、個別学力検査 (数学、理科) ・一般入試 (後期) : センター試験、個別学力検査 (数学) ・推薦入試 : 小論文、面接 ・AO入試 : 総合問題、プレゼンテーション・口頭試問 ・編入 : 口頭試問 ・私費外国人留学生入試 : 日本留学試験、面接
8	センター試験 利用科目	(変更 無) ・一般入試 (前期) : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語 ・一般入試 (後期) : 国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語
9	出願資格	(変更 無)
10	備 考	○詳細は、入学者選抜要項により発表予定。 ○取得できる資格については、変更なし。
11	その他補足事項	○文理融合型人材育成の意図を継承し、より高度な専門知識や研究経験に基づいて異分野の専門家と協力した思考・行動ができる人材を育てるために、1年次では数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング、共生の科学論などを幅広く学び、2年次からは9コースに分かれて関連する基礎・専門科目などを深く学ぶカリキュラムを準備しています。 ○取得できる学位：学士 (理工学)

福島大学農学群食農学類 (仮称) 2019 入試情報

平成29年9月14日

福島大学農学系教育研究組織設置準備室

福島大学農学群食農学類 (仮称) 2019年4月設置構想中

「以下の内容は予定のものであり変更する場合があります。」

■農学群食農学類 (仮称) の教育目標と求める学生像

〔教育目標〕

本学類は、農学を総合的・実践的に学び、21世紀の食料・農林業・地域社会が直面する諸課題の解決に貢献できる知識・技能と応用能力を備えた人材を養成する。

〔求める学生像〕

本学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す意欲を持ち、卒業までに次の四つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・ 農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力。
- ・ 異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力。
- ・ グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力。
- ・ 温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力。

本学類では、2年生の後期（第4セメスター）から、食品科学コース、作物・栽培学コース、生産環境学コース、農業経営学コースのいずれかに所属することになります。各コースは、次のような基礎的・専門的な知識と能力を身に付けた人材の養成を目標としています。

・ 食品科学コース：食品の分析について専門的な知識・技能を身に付けている。優れた食品の製造について知識・技能のポイントを修得するとともに、地域の食の伝統的な強みを活かす筋道を具体的に理解している。

・ 作物・栽培学コース：果樹・園芸等を含めて作物学の専門的な知識・技能を修得している。病虫害管理や土壌肥料の原理を学ぶことにより、安全な作物生産や環境保全型農業の基本課題を深く理解している。

・ 生産環境学コース：森林・農地・水利施設等の生産環境の実態を把握し、管理・活用システムを体系的に理解している。生産環境の修復やICT等の最先端技術導入などの実践的な課題に取り組むこともできる。

・ 農業経営学コース：農林業や食品産業の活動を社会科学の観点から分析する知識・技能を修得している。農商工連携などの新潮流の情報に詳しく、協同組合や共有資源の役割についても深く理解している。

■募集人員等

学群	学類	入学定員	募集人数				
			一般入試80名程度		AO入試20名程度		推薦入試
			前期日程	後期日程	地域社会 貢献枠	実践教育 経験枠	
農学群	食農学類(仮称)	100名程度	60名程度	20名程度	概ね10名 程度	概ね10名 程度	0名

※AO入試の入学手続き者が、募集人員に満たなかった場合、その欠員は一般入試前期日程の募集人員に加えます。

アドミッションオフィス入試(AO入試)

入試日等詳細については平成31年度学生募集要項で示します。

地域社会貢献枠

【出願資格】

- (1)高等学校または中等教育学校を卒業した者及び高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月卒業見込みの者又は高等専門学校の第3学年を修了見込みの者。
- (2)福島県内の高等学校等の生徒で、福島県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等の次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つ者。福島県外の高等学校等の生徒で、福島県内もしくは出身県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等で次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つ者。
- (3)本学類のアドミッション・ポリシーに適合し、本学類で学ぶ強い意志を持ち、合格した場合は入学を確約できるもの。
- (4)以下のいずれかを取得している者
 - ①実用英語技能検定準2級以上
以下の検定結果でも可
※CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A2 とし
IELTS 3.0以上、TEAP 150以上、GTEC 690以上、GTEC CBT 510以上、TOEIC L&R S&W 385以上
(L&R 225以上、S&W 160以上)など
 - ②実用数学技能検定2級以上
 - ③上記同等、同等以上の資格(例 情報処理検定ビジネス1級など)

選抜方法

【第1次選抜】

書類選抜とします。以下の書類により、熱意と適性の評価を行います。

(1)自己推薦書等

- ・自己推薦書（本学様式）
- ・地域社会貢献枠エントリーシート(本学書式)
(案)高校時代の地域での活動、自分の入学後の目標(教育・課外面)、卒業後の目標など。
- ・調査書
食農学類（仮称）への適性を判断するため使用

【第2次選抜】

第1次選抜合格者対し、課題論文を課し、面接を実施します。

実践教育経験枠

【出願資格】

(1)高等学校専門学科(農業、工業、商業、情報、水産、家庭、看護、福祉)、総合学科若しくは中等教育学校専門学科(同じ)を平成31年3月卒業見込みの者又は高等専門学校の第3学年を修了見込みの者で、農学を学ぶ強い意欲を持つ者。

(2)本学類のアドミッション・ポリシーに適合し、本学類で学ぶ強い意志を持ち、合格した場合は入学を確約できるもの。

(3)以下のいずれかを取得している者

①実用英語技能検定準2級以上

以下の検定結果でも可

※CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A2 とし

IELTS 3.0以上、TEAP 150以上、GTEC 690以上、GTEC CBT 510以上、TOEIC L&R S&W 385以上
(L&R 225以上、S&W 160以上)など

②実用数学技能検定2級以上

③日本農業技術検定3級以上

④日本商工会議所簿記検定2級以上

⑤上記同等、同等以上の資格(例 情報処理検定ビジネス1級など)

選抜方法

【第1次選抜】

書類選抜とします。以下の書類により、熱意と適性の評価を行います。

(1)自己推薦書等

・自己推薦書（本学様式）

・実践教育経験枠エントリーシート(本学書式)

(案)高校時代特に興味を持ち学んだこと、自分の入学後の目標(教育・課外面)、卒業後の目標など。

・調査書

食農学類（仮称）への適性を判断するために使用

【第2次選抜】

第1次選抜合格者対し、課題論文を課し、面接を実施します。

一般入試

詳細については平成31年度学生募集要項で示します。

大学入試センター試験の受験を要する科目等

試験日程	受験を要する教科名	科目の選択方法
前期日程 後期日程	国語 地理歴史、公民 数学 理科 外国語	国 世 B, 日 B, 地理 B, 現社, 倫, 政経, 倫政経から 1 数 I, 数 I・数 A から 1 数 II, 数 II・数 B, 簿, 情報から 1 物, 化, 生, 地学から 2 または 物基, 化基, 生基, 地学基から 2 および物, 化, 生, 地学から 1 英, 独, 仏, 中, 韓から 1 〔5教科7科目〕または〔5教科8科目〕

【注意事項】

- ① 「地理歴史」、「公民」から2科目受験している場合は、第1解答科目を判定に用います。
- ② 「理科」については、「基礎を付した科目」と「基礎を付していない科目」で同一名称を含む科目を選択しても構いません。
- ③ 「英語」についてはリスニングを含みます。（リスニングを免除された場合は、筆記のみとなります。）
- ④ 過年度の大学入試センター試験の成績については利用しません。当該年度の大学入試センター試験の成績のみ利用します。

個別学力検査等実施教科・科目等

試験日程	試験教科・科目
前期日程	物基・物、化基・化、生基・生、 数学（数 I・数 II・数 A・数 B）、英語、から 2 科目
後期日程	数学（数 I・数 II・数 A・数 B）、英語、から 1 科目 面接

【注意事項】

- ① 個別学力検査等について
前期日程の理科の「物理」「化学」「生物」は全領域
前期日程について、物基・物、化基・化、生基・生 から 2 科目の選択も可能である。
- ② 合格者決定方法について
一般入試における合格者の決定は、大学入試センター試験の成績および個別学力検査等の成績の総合点により行います。
個別学力検査等を受験しなかった者は合格者となりません。
出身学校の調査書は、選抜の基礎資料として利用します。
- ③ 得点調整について
個別学力検査等における選択科目間で、試験問題の難易度に差が認められた場合には得点調整を行います。

本件に関するお問い合わせ先
福島大学農学系教育研究組織設置準備事務室 山崎 TEL 024-504-2876

○社会人教育コース関連 (特記事項)

項目		内容 (各学類回答欄)
1	学群名称	人文社会学群
2	学類名称	行政政策学類 夜間主
3-1	夜間主コース 改編概要	【現在】 ○通称 「現代教養コース」 ○コース等 (所属学類) ① 文化教養モデル (人間発達文化学類) ② 法政策モデル (行政政策学類) ③ コミュニティ共生モデル (行政政策学類) ④ ビジネス探究モデル (経済経営学類) ○定員 60名 ○取得できる学位 ① 学士 (発達文化)、② 学士 (法学) ③ 学士 (社会学)、④ 学士 (経済学) 【新】 ○通称 「行政政策学類 夜間主」 ○コース等 (所属学類) ① 法行政政策コース (仮称) (行政政策学類) ② 社会連携コース (仮称) (行政政策学類) ○定員 20名 ○取得できる学位 ① 学士 (法学)、② 学士 (社会学)
3-2	コースの目的	○働きながら学ぶ人、経済的事情等によって夜間勉強したい人を対象とし、現代に必要な課題解決知識や職業人としての高等スキルを身に付け、キャリアアップを目指します。
3-3	対象	○現在定職 (内定者を含む) を持つ社会人で、働きながら大学で学びたいと考えている方 ○長期アルバイトをするなど経済的に困窮を抱えているが大学で学びたいと考えている方 ○総活躍社会を担うための学習の機会を求める方 ○定年退職後あるいは家庭生活をしながら、学びなおしの見地から高等教育を望む方
3-4	カリキュラムの 特徴	○社会人に特化した夜間主のカリキュラムを提供します (夜間の平日の授業は午後 6 時から 9 時 10 分。土曜日の午後はフィールドワーク等柔軟に活用)。 ○少人数教育の推進により、豊かなコミュニケーション力を育成します。 ○基盤教育と専門教育から成り、就労状況に合わせて個別指導を重視します。 ○1 年次は主に基盤教育を修学し、2 年次よりいずれかの専攻に所属します。 ○法学や社会学の学修をベースに、地域復興や地方創生、さらにビジネスにも応用させます。 ○放送大学 (インターネット) や昼間の授業も一部履修可能とする柔軟なカリキュラムをデザインします。
4-1	入試区分 (募集人員)	・ A O 入試 (20名)
4-2	試験科目	・ A O 入試 : 志願理由書に基づく口頭試問
4-3	センター試験 利用科目	利用無し
5	出願資格	(変更 有) ※下線は変更点 <u>A O 入試によるため、学校長の調査書平均評定 3.5 は要件としない</u> 社会人資格 ① 年齢が満 22 歳に達している者 ② 年齢が満 22 歳に達していない者で、出願時に就職している者 (主婦・主夫業を含む)、または入学後に就業しながら修学する意思を確約できる者。 ※ 就職・就業にはアルバイト、パートを含み、労働時間が週平均 20 時間以上の者
6	備考	○詳細は、入学者選抜要項により発表予定。 ○取得できる資格については変更なし。
7	その他補足事項	○取得できる学位 ・ 法行政政策コース (仮称): 学士 (法学)、・ 社会連携コース (仮称): 学士 (社会学) ○コースは、1 年次後期に本人の希望を考慮して決定します。

平成 30 年 4 月 3 日現在（資料 2－5）

福島大学 環境放射能研究所 設立から大学院設置・将来構想

フィールドを最大限に活用

環境放射能に係るさまざまな分野をリードし俯瞰的に対応する人材を育成

国際連携機関 (14機関) : 国際原子力機関 (IAEA), フランス放射線防護原子力安全研究所 (IRSN), ベルギー原子力研究所 (SCK・CEN), スコットランド大学連合環境研究センター (SUREC), ハンガリー国家フードチェーン安全監督局 (NEBIH), ノルウェー生命科学大学 (NMBU), ウクライナ国立生命環境科学大学 (NUBiP), ウクライナ・チェルニーヒウ国立工科大学 (ChNUT), ウクライナ・オデッサ国立環境大学 (OSEN), ウクライナ科学アカデミー計算機・計算システム研究所 (IMMSP), 原子力安全・放射性廃棄物・放射線生態学に関するチェルノブイリセンター (CC), ベラルーシ国立科学アカデミー・放射線生物学研究所 (IRB), コロラド州立大学 (CSU), ジョージア州立大学 (UGA)

国内連携機関 (10機関) : 筑波大学, 東京海洋大, 広島大学, 長崎大学, 福島県立医科大学, 放射線医学総合研究所, 産業技術総合研究所, 日本原子力研究開発機構, 国立環境研究所, 県環境創造センター

Advisory Board

Sergey Fesenko (International Atomic Energy Agency)
Wolfgang Raskob (Karlsruhe Institute of Technology)
Brenda Howard (Centre for Ecology & Hydrology)
吉田 聡 (放射線医学総合研究所)

2013年3月

文部科学省
国立大学改革強化推進補助金交付決定

2012年8月

第1回設置準備委員会

2011年3月11日

東日本大震災

5部門15研究分野

放射能形態学部門
放射能地球科学部門
放射線生態学部門
放射能計測予測部門
連携研究部門

2013年7月1日

環境放射能研究所設立

福島大学初となる附属研究所

2014年7月

分析・実験棟竣工



2017年2月

本棟・保存棟竣工



床面積 4,500m²

2019年4月

(構想中)

大学院設立 (計画)

平成30年4月3日現在

(資料2-6)

2018年3月

共同利用・共同研究拠点申請 (計画)

福島県内に設置されるさまざまな施設

2013年7月 環境放射能研究所
2015年4月 JAEA 廃炉国際共同研究センター
2015年10月 福島県環境創造センター
2016年4月 JAEA 櫛葉遠隔技術研究センター
2016年9月 福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター
2018年3月 (予定) JAEA 大熊分析・研究センター
2018年4月 (予定) 福島ロボットテストフィールド

来所数 (目的: 土壌, 水, 植物などの採取, 観測機器設置等)

2014年度 27名: フランス, 米国, ウクライナ等
2015年度 16名: フランス, スロバキア, ウクライナ, フィリピン等
2016年度 35名: ベルギー, オーストラリア, ノルウェー, 米国, フランス, ウクライナ他

学生の受け入れ (2014~2016年度)

半年から1年 19名: 福島大理工, 京都府大, フィリピン, ベトナム
1月~半年 15名: 京都府大, CSU (コロラド州立大学: 米国)
1月未満 4名: 名古屋市大

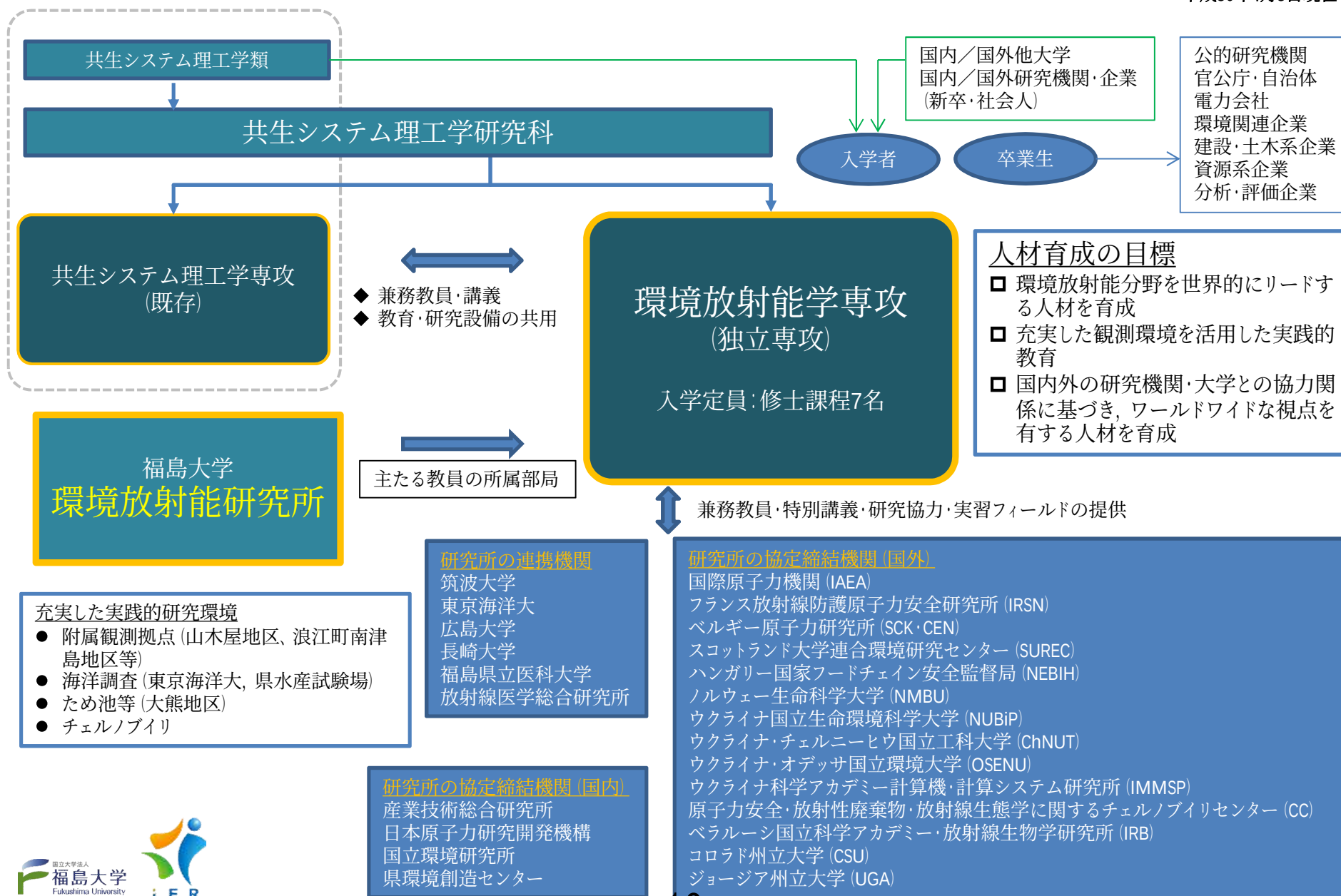


国立大学法人
福島大学
Fukushima University

環境放射能学専攻 (独立専攻)

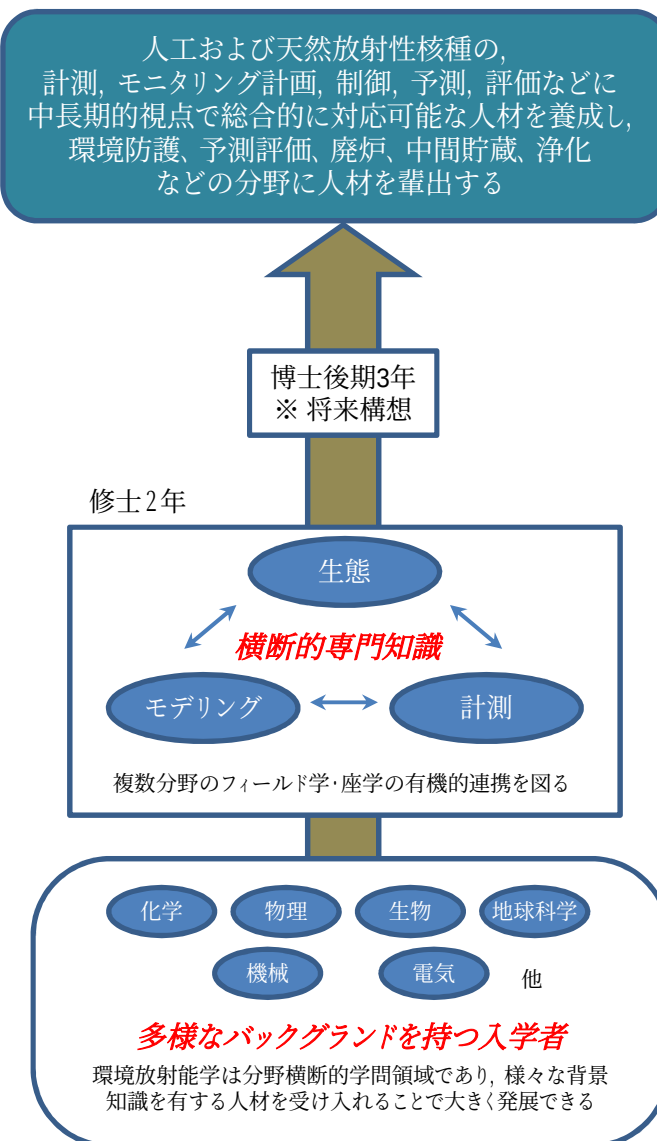
(構想中)

平成30年4月3日現在



カリキュラム構造

人材育成のイメージ



修士2年	深化教育	講究科目 分野を絞って専門的知識を深化させる 環境放射能モデリング講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 環境放射能計測法講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 環境放射能生態学講究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 修士論文研究	講究
		応用科目(座学・実習) 放射性物質・環境に関する専門的知識を習得する ※ 共生システム理工学専攻と共通 陸域生物圏放射能動態学, 放射能等の分離技術, 放射能計測実習, 放射能分析学, 物性物理学特論※, 分析化学特論※, メカトロニクス特論※, 陸域放射能動態学, 放射能数理学, 放射能モデリング実習, 放射能モデリング学特論, 海洋放射能動態学特論, 流域水管理特論※, 流域水循環特論※, 地下水盆管理計画特論※, 水圏放射生態学, 陸域放射生態学, 放射能生態実習, 森林放射能学, 動物生態学, バイオ・エコエンジニアリング特論※, 環境微生物学特論※	選択必修
	共通的基础教育	基礎科目(野外演習) 国内外の放射能災害被災地域において野外演習を行う 環境放射能学演習: 福島にて行われている環境放射能研究に参加しその手法を習得する 環境放射能学特別演習: チェルノブイリなど海外の放射能災害被災地域における演習	必修
		共通科目(座学) 放射性物質に関する基本的知識を習得する 核種分析学, 放射線計測学, 放射線防護学, 放射生態学, 環境放射能科学Ⅰ・Ⅱ, 放射能災害学	必修
教育導入		選択科目 多様な入学者に対応するための基礎知識の充実を図る 化学概論, 生態学概論, 地球化学概論	選択